



台頭するグローバルサウス

多極化世界における共創と日本の役割

米中対立の常態化や米国の自国第一主義の強まりを背景に、既存の国際経済秩序が揺らいでいます。こうしたなか、各国は存在感を高めるグローバルサウス諸国との外交・経済関係の強化を急いでいます。日本も、OECD（経済協力開発機構）などと協調しながら、関係強化を目指していますが、現状はASEANやインドなどに偏重しており、アフリカや中南米との連携は限定的です。

そこで本シンポジウムでは、はじめに世界経済の構造変化や日本のグローバルサウス諸国との連携策の現状・課題を多角的に検証します。その上で、日本がグローバルサウス諸国との関係を深化させるための具体的な戦略を議論します。

開催概要

日時 2026年11月13日（金）
14:30～17:00（開場14:00）

場所 経団連会館 国際会議場
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目3-2

参加費 無料

申込み 下記URL・QRコードよりお申込み下さい。
https://www.jri.co.jp/seminar/261113_713/detail/
応募多数の場合、抽選になります。



プログラム

開会挨拶 内川 淳 株式会社日本総合研究所 代表取締役社長

第一部
問題提起（1）「世界経済からみたグローバルサウス～その実力と成長期待～」
若林 厚仁 株式会社日本総合研究所 調査部マクロ経済研究センター所長
問題提起（2）「日本とグローバルサウス～現状と課題～」
熊谷 章太郎 株式会社日本総合研究所 調査部 上席主任研究員

第二部
パネルディスカッション
[パネリスト]
上田 奈生子 氏 OECD東京センター所長
遠藤 貢 氏 東京大学 大学院総合文化研究科教授
末廣 昭 氏 東京大学名誉教授 ほか調整中
[モデレータ]
石川 智久 株式会社日本総合研究所 調査部長

（注）詳細は現在調整中の部分もあり、今後変更の可能性があります。

お問い合わせ：株式会社日本総合研究所 調査部 シンポジウム事務局 E-mail：100800-sympo_recep@ml.jri.co.jp



パネリスト プロフィール <五十音順>



上田 奈生子 氏 OECD（経済協力開発機構）東京センター所長

2022年から現職。OECDの所掌する幅広い分野にかかる政策論議に参画。2025年から、目玉プロジェクトとしてOECD－東南アジア政策対話（於：東京）を立ち上げた。OECD勤務は三度目。初回はハイリゲンダム対話支援ユニットの上級政策分析官として開発を担当。二度目はOECD開発センターの局次長として、アジア地域や地域横断的分野（含、イノベーション、インフラ、ジェンダー）を統括、国際会議のモデレーター、スピーカー等も多数務めた。前職は外務省。経済局APEC（アジア太平洋経済協力）室長、ICAO（国際民間航空機関）常駐代表を務めたほか、気候変動、開発援助、日米貿易交渉等に従事した。国際開発修士（GRIPS/FASID）、国際政治／政治経済学修士（ペンシルバニア大学）。



遠藤 貢 氏 東京大学 大学院総合文化研究科 教授

東京大学にて学士号、修士号取得後、英・ヨーク大学大学院南部アフリカ研究センター博士課程修了（DPhil）。1993年東京大学教養学部助手、助教授を経て、2007年より現職。日本比較政治学会会長、日本国際政治学会理事長などを歴任。専門はアフリカ現代政治。主要な著作として『崩壊国家と国際安全保障：ソマリアにみる新たな国家像の誕生』（有斐閣、2015年）、『アフリカ：「経済大陸」の行動原理と地政学』（中公新書、2026年）など。



末廣 昭 氏 東京大学名誉教授

1976年東京大学大学院経済学研究科修了。アジア経済研究所、大阪市立大学を経て、1992年から東京大学社会科学研究所。2009～13年まで同研究所所長。2016年から21年まで学習院大学教授。アジア政経学会理事長、日本タイ学会会長を歴任。現在、東京大学名誉教授。経済学博士。紫綬褒章、福岡アジア文化賞など。『Capital Accumulation in Thailand 1855-1985』、『キャッチアップ型工業化論：アジア経済の軌跡と展望』、『新興アジア経済論：キャッチアップを超えて』など著者多数。

株式会社日本総合研究所



若林 厚仁 調査部 マクロ経済研究センター所長

2002年京都大学大学院理学研究科修了、同年三井住友銀行入行。04年日本経済研究センター出向、06年三井住友銀行経営企画部金融調査室、15年三井住友銀行中国有限公司（上海）などを経て、2018年から日本総合研究所。2025年7月よりマクロ経済研究センター所長。国内外のマクロ経済分析の取り纏めを担う。



熊谷 章太郎 調査部 上席主任研究員

2008年東京大学大学院経済学研究科修了後、日本総合研究所入社。調査部にてタイを中心とする東南アジアとインドを中心とする南アジアの経済調査を担当。2011年～2012年内閣府経済社会総合研究所へ出向、2015年～2017年三井住友銀行シンガポール支店新興国戦略本部へ出向。2024年～2025年オーストラリア国立大学クロフォード公共政策大学院豪日研究センターへ派遣。



石川 智久 調査部長

1997年東京大学卒業後、住友銀行（現在の三井住友銀行）入行。三井住友銀行経営企画部金融調査室等を経て、17年日本総合研究所調査部関西経済研究センター長、19年マクロ経済研究センター所長。22年内閣府政策企画調査官（経済社会システム）。23年より現職。著書に『金利のある世界』の歩き方』（日経BP 日本経済新聞出版、2024年）。

※パネリスト・登壇者の肩書き、プロフィール等は調整中の内容を含みます。